

◇ 吉 谷 一 孝 君

○議長（山本浩平君） 続きまして、3番、いぶき、吉谷一孝議員登壇願います。

〔3番 吉谷一孝君登壇〕

○3番（吉谷一孝君） 3番、会派いぶき、吉谷でございます。

通告に従いまして、町政執行方針・教育執行方針と町長公約について、5項目質問をさせていただきます。

戸田町長が2選を果たし、早くも4カ月が過ぎようとしています。私はこれまで町長が当選して以来、各所で発言してきたことを拝聴し、また間接的に聞いてきたことを顧みると、町長の2期目にかかる意気込みは並大抵のものではないのが随所に見られます。

職員へのあいさつの中には、退路を断つとまで言い切って、2期目の行政運営にあたる覚悟には町民の一人として、私も感服いたしました次第です。

町長は40代、孔子の言葉、四十にして迷わずという言葉がありますが、1期4年を経験し、行政のさまざまな問題に迷うことがなくなったのではないかとというふうに推察いたします。その一つが、今選挙で示した公約です。我々もそうですが、町長の任期は当然4年であります。さまざまな首長選挙を見聞したとき、大体は4年間で公約を完成に近づけるものですが、それにも増して今回は全ての公約に実施年度が明確に示されました。しかも、就任から2年間である28年度までに公約の8割を達成することを明確にしています。このような公約は今まで見たことも聞いたこともありません。それだけに、こうして自分自身を追い込むような公約を示すということは、職員にとっては縛りをかけられたのと同じことなので歓迎されないのではないかと勝手に推察しております。

馬には乗ってみよ人には添うてみよとも言いますが、民間から首長に就任して1期4年が過ぎ、行政の常識が何か違うと思われた結果が徐々にではありますが見えてきたのではないかと勝手に解釈した次第です。こうしたスピード感、民間感覚を町民が町長に期待し望んだことだと思います。

そこで、さらに踏み込んで公約の5項目について、具体的にお伺いしたいと思います。

公約の（1）こころかよわせるまち（教育・文化）。

ふるさと教育の充実の具体的内容とはどのようなものか。

コミュニティ・スクール導入と小中一貫型（連結）の考え方とはどのようなものか伺います。

（2）笑顔あふれるまち（福祉・医療）。

親しまれる町立病院の改築の考え方についてであります。通告ではスケジュールについてお伺いしておりますが、先ほどの大淵議員の中身にもこのスケジュール的なことは述べられておりましたので、そのところは割愛されても結構です。

（3）希望あふれるまち（コミュニティ・交流）。

町民サポートセンター設置による今後期待される効果はどのようなものがあるのか、お伺いいたします。

（4）活気あふれるまち（産業・雇用）。

地域おこし協力隊はどのような活用方法をするのか、お示しいただきたい。

(5) 安心を感じるまち（行政・公共）にあります。

白老版DMOまちづくり会社の今後のスケジュールについて伺います。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

〔町長 戸田安彦君登壇〕

○町長（戸田安彦君） 吉谷議員の代表質問にお答えします。

町政執行方針・教育執行方針と町長選挙公約についてのご質問であります。

1 項目め、「こころかよわせるまち」の1 点目、「ふるさと教育の充実」についてであります。

人は、多くの人と関わることで、家族や友人、周りの人への愛情や感謝の気持ち、郷土への理解や愛着が育まれ、健全で豊かな人間性を身につけていきます。

本町では、各小中学校においてのふるさと学習として、アイヌ民族の歴史と文化を学ぶ「ふるさと学習指導モデル」の実践による深化に取り組むとともに、地域の歴史・自然・産業などの多様な教育資源を活用した体験学習を実施することにより、ふるさとへの愛着心を育む教育活動を進めております。

今後は、地域の食材を活用した郷土給食の充実に取り組むとともに、地域の人材や伝統・歴史的資源を有効に活用した地域学講座を開講するなど、郷土への愛着や誇りを高め、豊かな感性と多文化共生の心を育むふるさと教育の充実に努めてまいります。

2 点目の「コミュニティ・スクール導入と小中一貫型の考え方」につきましては、子どもたちの豊かな成長を育む教育活動の充実を図るため、学校運営協議会を設置し、地域の声を積極的に取り入れた学校運営を行うことによって、地域とともにある学校づくりを目指すものであり、白老小学校と白老中学校の2 校による小中一貫型のコミュニティ・スクール導入に向けた準備を進めているところであります。

また、義務教育9 年間の学びの連続性を確保し、小学校から中学校への円滑な接続を図るため、中学校の教員による小学校への乗り入れ授業など、小中連結の取り組みを進めており、今後はさらにコミュニティ・スクールと連携させて、地域に開かれ、地域とともにある魅力ある学校づくりを推進していく考えであります。

2 項目めの「親しまれる町立病院と改築の今後のスケジュール」についてであります。

町立病院にかかる私の政策公約は、「町立病院は計画をつくり町民参加の協議会等を設置して平成30 年度に改築に着手します。また、より親しみの持てる協力隊などの新たな仕組みづくりを検討します。」であります。

町立病院の公約実行に向けた取り組みでは、町内会連合会や各町民団体等の代表者、町立病院運営審議会委員及び一般公募の方々を合わせた10 名の委員による病院改築協議会を設置し、これまで2 回の会議を開催し、各委員から聴取した意見・要望等を病院改築基本方針の策定に反映させる考えにあります。

また、町立病院では、従前より多くの団体の方々にボランティア活動をいただいております

が、今後も引き続き町民の方々と親しみの持てる病院づくりに向け、共有できる取り組みを進めてまいります。

次に、新病院化に向けた町立病院の改築整備を進める上で、基本設計を策定する前段に、具体的な診療部門別医療計画や整備スケジュール、概算事業費、将来収支計画等財政計画などを盛り込む病院改築基本計画は、財政健全化プランの見直し時に併せ、28年秋ごろをめどに策定する考えにあります。

3項目めの「町民活動サポートセンター」についてであります。

これまで町内会連合会が受託していた団体支援や活動促進業務を町民活動サポートセンターに移行することで、町民活動団体やNPOなどの自主的な地域自治活動を促進・支援することや、相談・協力・連携の充実を図ることが期待できます。

4項目めの「地域おこし協力隊」についてであります。

地域おこし協力隊は、総務省による地域おこし協力隊推進要綱に基づき、人口減少や高齢化等の進行が著しい本町において、地域力の担い手として、地域の活性化や地域課題の解決に向けて取り組むため、昨年12月28日から1カ月の募集を行いました。

まちづくり・生活支援、農業振興の3分野5名を募集したところ、まちづくり・生活支援の2分野9名の応募をいただき、第1次選考を経て、先日、第2次選考の面接を行ったところあります。

選考者につきましては、白老町内に居住しながら、本町の各分野での地域課題に民間事業者や町民団体、行政と連携しながら、隊員自身の想像力・企画力・行動力を発揮し、積極果敢に取り組んでいただきます。

将来的には、起業・就業等により本町に定住・定着していただくことを期待しております。

5項目めの「まちづくり会社」についてであります。まちづくり会社は、象徴空間の開設による交流人口の拡大を活性化の好機と捉え、町内の回遊性を高めることで、経済波及を増大させることが重要であることから、多様な産業が連携・協力する観光地域づくり推進法人として総合的な産業振興を図るために設立を目指しております。

27年度は、地域総合整備財団の地域再生マネージャー事業の助成により、まちづくり会社の事業・運営調査を行い、地域現状の把握と設立の可能性について検討してまいりました。その後、交付金事業により、まちづくり会社研修会の開催や設立手続きプランを作成しております。その過程を経て、来年度はステップアップ事業として、助成金を活用し、まちづくり会社の設立推進事業を展開することで設立に向けた準備を進めてまいります。

**○議長（山本浩平君）** ここで、暫時休憩をいたします。

休 憩 午 前 11時57分

---

再 開 午 後 1時00分

**○議長（山本浩平君）** それでは、休憩前に引き続き、代表質問を続行いたします。

3番、吉谷一孝議員。

〔3番 吉谷一孝君登壇〕

○3番（吉谷一孝君） 3番、吉谷でございます。

先ほど休憩前に答弁ありました再質問でございますが、地域の食材を活用した郷土給食の充実に取り組むとしましたが、学校給食については、これまでも白老牛やタラコを使った給食を提供していますが、これ以外に何か考えていることはありますか。

それと、多文化共生の心育む教育は、どのような内容で、どう進めるのか、具体的に示していただきたいと思います。

次に、笑顔あふれるまちについて、お伺いいたします。

町立病院は、町民参加の協議会の件でわかりましたが、ただ、親しみを持てる仕組みづくりを検討しています、この点が具体的に見えてこない。公約では新たな仕組みとしていますが、これが白老独自の何か新しい手法を取り入れるのか。これは27年度検討となっております、その点についてはどうか、お伺いいたします。

また、報道によりますと登別市にある地域医療機能推進機構登別病院がJR登別駅周辺や幌別周辺で検討されていると聞いています。仮に登別周辺に進出すると、虎杖浜や竹浦の患者が流出するのではないかと考えられます。この辺の予測はできているのでしょうか。さらに、現在登別病院に白老町からどれだけの患者が通院、あるいは入院していますか。とりわけ、白老町は苫小牧と登別の両市に囲まれ、他の市からの流入が見込めない状況にあります。新町立病院も患者を基本町内で賄わなければならない状況です。そのあたりの対策もあわせてお願いいたします。

これらは、象徴空間設備で観光客の訪問を考えたとき、町民はもちろん、観光客の安全安心の観点からも戸田町長の言うように町立病院は必要だと思えますが、建設に向けかなり戦略を立てて万全を期すべきだというふうに思いますが、この点についてお伺いいたします。

次に、希望あふれるまちについてお伺いいたします。

町内会連合会から、町の委嘱部門を分離して町民活動サポートセンターを設立しましたが、今答弁にもありました自主的な活動を推進・支援するとのことですが、もう少し具体的な例を挙げて説明をお願いいたします。

また、集落支援員を充実した地区協議会からの予算要望の仕組みをつくるというふうにあります、町民からの予算要望は従来の仕組みの中でこれまでもいろいろあったと思えますが、あえて戸田町長が公約に盛り込んだわけですから、白老町が内外にも誇れる予算要求の仕組みになるというふうに思われます。この点について、具体的にお伺いしたいと思えます。

続いては、活気あふれるまちについてであります。

地域おこし協力隊など、外部人材を活用するとのことですが、先日面接が行われたようです。さきの質問にもありましたが、人材が集まって4名募集されたというふうに聞いております。

各分野にどのように振り分けてきたかも伺います。

また、次の質問にもかかわりますが、まちづくり会社ともリンクしてくるのかもあわせてお聞きいたします。

さらに、まちづくり会社設立は町民の中に徐々に浸透してきているのですが、具体的な内容がなかなか見えていないのが現状です。設立準備を進めると答弁にありましたが、さきの記者会見で述べているようですが、基本的に組織の内容、人選や中身などはどのようになるのか。また、募集はどうなるのか、お聞きします。

このまちづくり会社による経済波及効果の予測もあわせてお示ししていただきたいと思えます。象徴空間が動き出すとやはり町民は経済の底上げ、あるいはその効果に期待を寄せます。とりあえず設立しようなどという考えではないことは重々承知しておりますが、経済界が最も注目していると思えます。公約では 28 年度に立ち上げると明記しています。この点も公約なので間違いはないと思えますが、確認と具体的に 28 年度のいつごろになるのかについてお伺いいたします。

**○議長（山本浩平君）** 葛西学校教育課食育防災センター長。

**○学校教育課食育防災センター長（葛西吉孝君）** 今、1 点目の地域の食材の活用をした郷土給食ということでございますけれども、過去に給食としましては、平成 6 年度から町の一般財源を充てて、郷土給食のほうを実施してきております。

その間、白老牛ですとか、低農薬の野菜、それからホッキ飯などを継続してやってきております。平成 13 年度からは町内の事業所様から寄贈いただいた中で郷土給食を継続してきておりまして、今までで延べ 24 回の郷土給食を子供たちへ提供してきているといったような実態になってございます。

それと今までも議会でもお話ししておりますけれども、しいたけですとか、卵、これは地場産品を使った 100%の地場産品で給食のほうの調理をして提供しているといったような実態になってございます。

それと、3 年前だと思えるのですけれども、社台のほうで新たに就農した方からハウレンソウ、ことしに関してはトウモロコシを収穫できたということで、子供たちにゆでとうきびを提供したといったような実態にもなってございます。

今のところそういう地場産品を活用して、子供たちに給食を提供すると。そういった中で学校の給食担当者会議ですとかで、こういった地場産品を使って給食を出しているのですということで子供たちにもお伝えくださいというような取り組みをさせていただいております。

今後、今農林水産課とも連携をとっておりますけれども、社台のほうでまた新たに就農する方が出てきたということで、給食のほうにそれを回していただけないかということで、今、足がかりをつくっているところでございます。

収穫量ですとか、当然事業として行っていますので、その辺の収益の関係も含めまして新年度に入った段階で、私どもと農林水産課と事業者の方と協議を進めていきたいというふうに思っているところでございます。

それともう 1 点、新たにアイヌ料理の検討をちょっとしていきたいというふうに思っております。昨年、私もオハウの試食会へ行ってきました。子供たちにどのような形で提供ができるのか。学校給食というのは全体の栄養バランスを取った中で出すということが大前提にありま

すので、どのような料理の種類があって、どの程度のものを提供していけるのか。そこは財団の担当の方とも協議をしながら、検討していきたいというふうに思っているところでございます。

以上でございます。

**○議長（山本浩平君）** 安藤教育長。

**○教育長（安藤尚志君）** 私のほうからは、多文化共生にかかわる教育の具体的な進め方についてお答え申し上げたいというふうに思います。

この教育に関しましては、子供たちを対象にした学校教育の部分と、それから町民の皆さんを対象にした生涯学習にかかわる分と二つの視点があるかというふうに思います。

町民の皆さんの生涯学習にかかる分については、担当課長から説明をさせたいと思います。

私のほうは学校教育の部分でのお話ということでご了解いただきたいと思います。

多文化共生の根本的な考え方というのは、一人一人の違いが認められる他者理解というのが根底に流れているというふうに考えております。この考え方は、教育のそもそも根本にかかわる問題でございまして、多文化共生を取り組む、取り組まないにかかわらず、どの学校、どの教育活動においてもこうしたことは重要ではないかというふうに考えております。

具体的には、こういった考え方を町内各学校の教職員を通して、具体的な実践の場面で浸透させていくというふうに考えておりますが、とりわけ、白老という地域性を考えたときには、これまでも本町で取り組んでまいりました、アイヌ民族の歴史と文化を学ぶ学習、このあたりが大きな中核になっていくのかというふうに考えております。このことについては従前行っております、子供たちのアイヌ民族博物館における体験学習だとか、あるいはふるさと学習モデル指導というような、毎年これは更新してはいますが、各学校の実践を取りまとめたもの、こういったものを中心としながら子供たちに他者理解、広くは多文化共生の基礎づくりを行ってきたいというふうに考えております。生涯学習については、課長のほうからお願いします。

**○議長（山本浩平君）** 武永生涯学習課長。

**○生涯学習課長（武永 真君）** 生涯学習にかかる、町民へのふるさと教育というようなことですが、まず町民に対しましては、特にアイヌ文化ではございますけれども、イオル事務所チキサニやアイヌ民族博物館等でさまざまな事業を行い、またその他の歴史、文化に対しましては陣屋資料館、教育委員会のほうで体験学習等を行ってきたところでございます。

また、町民みずからが学ぶと、町民みずからが行うというようなことにつきましては、白老のアイヌ協会ですとか、民族芸能保存会、その他文様刺繍、アイヌ語などの各種サークルなどにおいて、それぞれが技術の向上を図ってアイヌ文化を伝承する、積極的に保存、伝承に取り組んできたところでございます。次年度からにおきましては、ちょっと今までやってきたことは参加者が一握り、非常に少ないということがあり、また一部の町民に偏っているというような現状。また伝承者、解説者などが高齢化を迎えているというところも気になっているところでございますので、来年度からはまちの歴史や文化等にあまり関心のない町民、彼らを引きつけるような魅力ある地域学講座をしげく開催していきたいと思っておりますし、また広報連載

中の史跡散歩やアイヌ語地名、本町が生んだ偉人、石碑等をまとめまして、白老再発見という  
ような小冊子をつくりながら、皆さんに広報していきたいというふうに思っております。

以上です。

**○議長（山本浩平君）** 古俣副町長。

**○副町長（古俣博之君）** 病院の関係で、私のほうからご答弁させていただきます。

吉谷議員があげられております、親しまれる町立病院の改築ということにまずは1点目かかわってお話をさせていただきます。

まず、改築に向けての目指す方向性といいますか、押さえ方というのは、やはり今この少子高齢化という、そういう時代状況をしっかりとらまえながら地域住民に親しまれる、信頼される病院が最も親しまれるというか、信頼されるということが、親しまれることにつながっていくのだろうというふうに押さえております。そのためには医療スタッフや事務員スタッフ、そして医療施設だとか、機器だとか、そういった病院環境そのものがやはり更新されていかなければならないのではないかとこのように思っております。と同時に、町立病院のみでも白老の地区の中で生きていくというか、存続していくということはなかなかやはり難しい部分だろうと。そういうことから言えば、近隣地域との医療関係、医療の連携を強化していく、そういうことによってさらに信頼を深め、そして親しみがもたれる病院ではないかというふうに思っております。現在、27年にもっとボランティアの部分、病院そのものの中の協力隊と、戸田町長があげておられるその協力隊の部分については、そのボランティアのあり方については、今どのような、ほかの病院で例えばボランティアが居て診察科に受け付けが終わったら連れて行ってあげるだとか、車いすを押してあげるだとか、挨拶だとか、そういうようなさまざまなかかわりがあるだろうと思っておりますけれども、それだけではなくて、もっとこう運営に関してもかかわりあるような協力システムをつくっていかねばならないのではないかとこのように思っております。

それから二つ目の、今、出ております、独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）の登別病院の関係でございます。まだまだ報道でしか実際にはつかまえてはいないのですけれども、これが今報道で出されているJRの登別駅の近くだとか、幌別駅の近くだとかというふうなことが実際になされていけば、では先ほど吉谷議員のおっしゃるような、虎杖浜、竹浦地区の患者さんがそちらのほうに行くのではないかと。その影響は多分にあるかというふうに押さえております。

それで、現在数字的にちょっと上げてお話ししたいと思うのですけれども、今、27年度現在竹浦地区の外来延べ患者数は3,304人おります。それから虎杖浜の方については、延べ人数822人です。そういう中で町立病院全体の外来の患者の延べ人数が約3万人というふうな中におさえれば、今私が申し上げた竹浦地区、それから虎杖浜地区の患者とのかかわりでいけば、その中で13.8%ぐらい、虎杖浜、竹浦の患者さんがいらっしゃる。その患者さんが行くかどうかというふうなところはわかりませんが、多分に距離的な問題だとかを含めて、それは影響はあるのではないかとこのように押さえております。

それから3点目につきまして、観光客と病院とのかかわりについては、やはり今申し上げた、例えば独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）があそこから温泉地区から下がる、はじめはなくなるというふうに言ったときに、非常に登別ではその影響、市民に対する影響もそうですけれども観光客に対する影響ということで随分、市の行政側にとってはその病院のあり方については苦慮された部分があって、今、要請書も含めて出しておりますけれども、そういう今、お互いに話し合いになっています。

ですから本町においても、先ほどの大渕議員のご質問の中にもありましたけれども、これから本町が一つ目指す方向としては、食と観光というふうな中で生きていくときにやはり観光客に対する安全性を確保していく、安全安心を確保していく上では、この町立病院の改築というのはどうあらねばならないかという、非常に大きな柱、検討する柱になってくると思っております。

以上です。

**○議長（山本浩平君）** 岩城副町長。

**○副町長（岩城達己君）** それでは私のほうから3点、まちづくり活動サポートセンター、地域おこし協力隊、まちづくり会社、3点についてお答え申し上げます。

まず、町民活動サポートセンターの関係です。

現在、町内会連合会で広報編集から、それから花と緑の会、あるいは活動団体のサポート、そういうのを町内会連合会という位置づけで取り組ませていただいておりますけれども、そこをしっかりと、まず骨の部分に分けまして、町民活動サポートセンターという位置づけを確立させたいという考えで今回戸田町長が公約にあげて取り組むというところでございます。

この活動センターでございますが、ご質問の中でどういう効果が出てきて、どう支援していくかということは、まず活動団体の活性化、活発化、こういうことにつながってくるという部分。それと地域を支援することなのですが、それぞれの地域で工夫してもらって、この部分は自分たちがやるけど、この部分は行政が支援してほしいと。そういう部分が、これまでもまちづくり懇談会などでもこういう議論があるのですが、そのルールをつくりたいというものです。そのルールにのっとって、当然予算の範囲内になりますけれども、地域への支援をしていくというのが、この地区協議会がさらに発展して行って、活動サポートセンターの中で取り組まれていくということの仕組みをつくっていくというものであります。

それから次の地域おこし協力隊、どう振り分けたか、その実態ということなのですが。面接のときもそうですし、事前に何を希望して、どうまちおこしするかという思いをレポートいただいている中では、それぞれ今回希望にあった、まず生活支援に1名、移住定住を含めたまちづくりに3名の計4名ということで、それぞれ委嘱する考えであります。当然、東京から来られる都市部の方もいます。白老のまちというのは何回か来て、このまち大好きになりましたと。地方の人、都会の人は全然知りません。そういう部分でもっとこんな発想を持てば、もっとわかってくれるのに、そういう我々が普段気がつかない着眼点をしっかり見つけてくれて、だからこうしていきたいというお話もありました。そういったことをまちづくりに生かしていきたい



いと。それこそその地域おこしとして活躍してもらいたい、そういう目的で展開していくということになります。

最後のまちづくり会社にもつながってくるところはあるというふうに思いますが、今はそこでスタートさせていきたいと思います。

最後の、まちづくり会社の関係です。いつ立ち上げるか、またその組織から人材からというご質問がございます。今月にもまちづくり会社の勉強会を実施する予定ではいるのですが、なかなか民間さんでいう普通の会社を立ち上げると、こういうイメージがあるかと思うのですが、まちづくり会社の大きな特徴といたしましょうか、どうやって運営収益があるのという中では、そこに加盟する事業所さん、会員さん、その人たちが共同化するというのがすごく大事なのです。個店で各お店なんかでも、自分のお店で実はこんな部分に費用がかかっていますというのを共同化するとコストは下げられるというのがあります。実際役場でも、例えば自動ドアの点検をある会社で役場、教育委員会、総合保健福祉センターでばらばらに発注すると、コストがかかるのですが、今一本にしました。そのことによってコストを抑えられたということがありますが、同様にそういうふうに共同化することで、それぞれの個店の経費が下がる。ではその利潤をどうするかというと、そのまちづくり会社が一つになった利潤をもって広告宣伝をうったり、イベントしたり、個々のお店が利益を出すのではなくて、その出資した会社がちゃんとそういうことをかわって共同で事業をしている。まちづくり会社というそのものが、そういう目的の中にある。そのことを行政がまずきっかけをつくってやろうと。ですので、まずはその土台をしっかりとつくらなければならないと思いますので、では何月にできるかということは明言できませんが、そういう部分をしっかりとつくり上げた上で、そういう部分につなげていきたいというふうに考えています。難しいのは、そのことをきちんとコーディネートできる人材です。先進のまちづくり会社の事例を見ても、やはりそこをしっかりとできる人材、そういう方がいないとなかなかうまく進まないという部分があります。そのことが先ほど吉谷議員のご質問あった、地域おこし協力隊の中にうまくつながっていけばまた一つの方向かというふうに思いますし、また町内にもそういうことがしっかりとできる人材も探して展開していかなければならないかというふうに思っています。

経済効果の額的なことについては、担当課長のほうからお答えいたします。

**○議長（山本浩平君）** 高橋企画課長。

**○企画課長（高橋裕明君）** ただいま、まちづくり会社に関するその経済効果の件でございますけれども、まずまちづくり会社は、今国が中心に言っておりますDMOという機能を、役割を果たそうということでございますので、今、副町長から答弁したように、まちづくり会社と1次産業者、それから宿泊施設とか、飲食店とか、交通事業者、さまざまな事業者とかかわって、つなぎ役となってそれをコーディネートしていくということで、いわゆる町内経済の町内循環を高めていこうということでございます。ですから、先ほどの答弁にもありましたように、波及効果係数というのが1.7ぐらいあるというお話をいたしました。その町内の調達率ですとか、町内の方が仕事に従事するというのでその波及効果率が高まっていくというこ

とになります。ですから、1.7が1.8になれば、先ほどの想定では50億というのがあれば、5億円の効果が高まっていくということになりますので、それを1.7が2に近づくように考えていきたいというふうに思っております。

○議長（山本浩平君） 3番、吉谷一孝議員。

〔3番 吉谷一孝君登壇〕

○3番（吉谷一孝君） 再々質問になります。

食材を生かした郷土給食というのをまた聞かせていただきまして、私も子供がたくさんいまして給食のお世話なっております。本当においしいし、メニューも豊富になったし、楽しみにしているというふうに思いますし、私も試食で食べさせていただきました。とてもおいしい給食を提供させていただいているというふうに思いますし、これからもまた本当にあの施設が立派な施設でいい施設でありますから、それを活用して町民、子供たちが喜んでもらえるような、そういった給食を提供していただければというふうに思いますし、これからのお仕事にも期待しているところであります。よろしく願いいたします。

これは、コミュニティ・スクールとか、学校関係のあれですけども、やはり私が感じたところは、私が子供のころはなかなかこの白老のアイヌの文化、歴史について学ぶ機会というのはあまり多くはなかったのが、ここ最近子供たちも体験しているし、経験しているということも耳にしますし、そういった文化、歴史について知識が深まっているというふうに私も感じております。このことは本当に成果として上がっていますし、これから博物館がきて、そういった意味でこの博物館に来ていただいた観光客に子供があそこに行くにはどうしたらいいの、逆に言うとこの歴史ってどうなのということ子供が説明できるような、そういったことがこれからできるのか、そういったことに期待も含めてする必要があるのかと。そして社会教育については、私もここで子供のころから過ごしていますが、なかなかその深い歴史、文化についてきちんとした理解がまだまだ不十分であるということは私自身も認識していますし、町民もこれから多くの来訪者のために、これからそういった教育、考え方を充実していくということは大変重要なことだというふうに思いますし、これから新しい取り組みの事業も行っていくことを伺っておりますので、そういったことが早い段階でわかれば周知をしていただいて、なるだけ多くの町民の方々にそういう機会を設けていただければというふうに思います。

そして、親しまれる病院です。これについては、先ほど副町長から答弁がありましたように、まさしくそのとおりだというふうに思いますし、これは虎杖浜、竹浦の地区の人たちが町立病院においては確かに全て来ていただければありがたいことだというふうに思いますが、地域に住んでいる方にすれば、利便性が向上するのであればどちらの病院を使うかというのはそれは使う方々の利便性を考えて使ってもらえればいいのかというふうに思いますが、ただ、それだけではなく、先ほど連携の話もありましたが、診療科をどうするのか、連携をどうするのかということのすみ分けをきちんとすることによって、この効果ということも出てきますし、本当に信頼される使いやすい病院になるかというふうに思いますので、そういったことも考えてこれから協議を進めていっていただきたいというふうに思います。

3項目め、4項目め、5項目めについては、ある程度理解は示されました。ただ、この先ほど岩城副町長が言われた課題の部分です。土台づくりだとか、周知の部分だとか、あとコーディネートする人材、ここについてはやはりよほど精査して取り組んでいかなければ、この事業がまだまだ期待の大きい事業でありますし、発展する事業だというふうに思いますので、その辺のところは十分考慮されて、これから取り組んでいただきたいというふうに思います。

本当に最後になりますが、私もこの4年間議員を経験させていただきまして、行政には法的な縛りがあることや、手続上時間を要するということが理解することができました。戸田町長もそういったもどかしい思いの中で、活動していたのかというふうに勝手に解釈した次第ではありますが、戸田町長自身私が述べた政治信条で間違いのないのか、改めて伺って最後の質問にさせていただきたいと思います。

**○議長（山本浩平君）** 戸田町長。

**○町長（戸田安彦君）** 代表質問で私の公約を中心に質問をいただきました。

4年間やらせていただきまして、2期目がスタートしたわけでございますけれども、4年間の経験の中で2期目どういふことをしようかと考えたときに、まず財政の早期健全化はもちろんでありますが、厳しい現状の中でいかに行政サービスを向上させ、または経済の底上げもさせていかなければならないということが強く思ったところでございます。

町民の皆様も非常に厳しい状況の中で今生活をしている中で、少しでも早く公約を達成して、町民のサービスになればいいなというふうに思っております。

私の公約のテーマが、協働が深化する多文化共生のまちということでありまして、協働というまちづくりをしてきた白老町が、象徴空間を契機に全国、世界に発信するまちになっていけばいいなというふうな中でつくったところでございます。

1年5カ月で約8割を達成するという、速効型の公約をつくらせていただきました。町民の中では1年5カ月たったらどうするのだというお話もあるのですが、この1年5カ月で約8割を達成して、そのあとはそれぞれの事業をパワーアップ、もしくはそれにプラスアルファをつけて進んでいきたいというふうに考えております。民間感覚ということで1期目お話をさせていただきましたが、どうしても行政では手続等々で時間がかかるものがあるのですが、公約の全てに年次を入れさせていただきまして、職員は大変な思いををすると思うのですが、4年の中だけではなくて、できるものはすぐ取りかかるということでございますので、議員の皆様にもご協力をいただきながら進めたいというふうに思っております。

もちろん公約が全てではありませんので、28年度の町政執行方針も中心に、また総合計画や戦略会議もあります。いろんなさまざまな諸課題がある中、また進んでいきたいというふうに思っておりますし、行政だけではいつまでできないと思っておりますし、住民自治の中心は住民でありますので、その辺も十分考えながら進んでいきたいというふうに思っております。

以上です。

**○議長（山本浩平君）** 以上で、3番、吉谷一孝議員、会派いぶきの代表質問を終了いたします。